

医療法人財団アカシア会「クリニックふれあい早稲田」開院15周年記念

「ともに歩む、認知症医療とケア」出版記念、「いつか見た空のように《自分史》」出版記念

自立(律)支援を語る

講演とパネルディスカッション

クリニックふれあい早稲田は、2000年5月1日に開院し早や15年の歳月がたちました。この間、「地域の皆さんのホームドクター」「高齢者や障がい者が安心してかけられるクリニック」「勤労者・地域のみなさんの健康管理・健康増進」の3つの理念を掲げて活動を展開してまいりました。

その活動の中核的キーワードが、“その人らしい生活と人生をささえて”であり、抽象的な“その人らしさ”ではなく、一人ひとりの個性あふれる“その人らしく自立した生活と人生”の支援(自立生活支援)です。

私どもは、この理念を根幹におき、地域に立脚した医療・介護・福祉事業を展開してまいりました。この“自立生活支援”を貫くには、それを阻害する諸要素の克服めきには進みません(3つの抑制・上から目線での強制・治療の名による管理など)。つまり、従来の医療観・介護観・福祉観の根本を見直す必要もあると感じてきました。私どもの実践の集大成として、本年2月に、大場・高杉共著「ともに歩む、認知症医療とケア」を出版して、世に問いました。今回はこの出版記念もかねております。

今回の15周年および出版記念の講演に、「がん終末期のケアの視点は認知症と全く同じ」と考えておられる大岩孝司先生にお願いすることになりました。大岩先生は、13年前に、がん終末期在宅緩和ケア専門診療所を開設され、地域医療を展開され、がん終末期緩和ケアで「最も重要なのは、自律支援/自己決定の支援」「鎮静は緩和ケアの手段ではない」「あるべき道を一緒に歩いて行くことが必要」と断言されておられます。深い実践と思索に基づく、示唆に富むお話しが、お伺いできると思います。

皆さん、一人でも多くの方のご参加を、心より呼びかけます。

日 時； 2015年5月16日(土曜日) 午後3時から5時30分

会 場； 三郷市文化会館 2階大会議室 午後2時30分より受付開始

一部 講演「自律支援・ともに歩む医療と町医者」 講師：大岩孝司医師

(さくさべ坂通り診療所所長・在宅緩和ケア医<元肺外科医・千葉大学医学部肺癌研究施設外科などに勤務>
・千葉県がん対策審議会委員、千葉県緩和ケア推進部会部会長)

二部 パネルディスカッション 「ともに歩む 医療・介護・福祉 ——

その人らしい生活と人生をささえて、自立(律)支援の過去・現在・未来」

- ・ パネラー： 司会(兼) 大場敏明 (クリニックふれあい早稲田院長・アカシア会理事長)
- ・ 大岩孝司 (がん終末期在宅緩和ケア医)
- ・ 三輪田達 (障がい者就労支援・ラポルタ施設長)
- ・ 矢花孝文 (精神科医・みさと協立病院副院長)
- ・ 高杉春代 (認知症介護・アカシア会介護統括部長)

お問合せ先：クリニックふれあい早稲田 TEL：048-950-3330